

編集後記

今年の冬は例年になく寒気が酷しかったが、もうすでに梅の便りが聞こえている。今からまっしぐらに春がやって来る、その実感を庭の片すみからも空気の肌ざわりからも感じ取ることはたのしい。

今回の本誌は特集テーマとして装具をとりあげた。装具はその重要さや広い用途にもかかわらず、十分な研究の裏付けに乏しく、ことにわが国の装具は種々の面で立ち遅れが指摘されており、どちらかといえば日の当らぬ場所に置かれてきた感がある。この意味で、大川嗣雄氏、渡辺英夫氏、村田秀雄氏が新しい観点に立った装具の考え方を紹介し、ことに biomechanical な研究による旧来の装具の再検討、高分子化学材料による装具の新しい動向について述べられているのは興味深い。座談会でも装具の実際的な問題が種々の角度からとりあげられており、日常関心を持たれる方々のよい参考となるであろう。

岩井昂氏は force plate を用いて歩行診断の実際的应用の可能性を述べ、中村隆一氏らは一連の脳性麻痺の動作分析の中で今回は運動巧緻性の解析をこころみ、笹沼澄子氏は講座「言語障害のリハビリテーション」の第1回、総説からスタートを起こされた。小畑美知夫氏は今回の点数改訂に事務的に取組まれた方々の一人であり、解説の原稿をお寄せ下さったことを感謝する。なお巻頭言の中で土屋和夫氏が「マッチ・ポンプの弁解」と述べられていることは、今の医学界のリハビリテーションを見る見方にも当て嵌まることであり、医師側の問題としても考えてみる必要があるであろう。

(土屋 弘吉)

編集顧問

天 児 民 和	五 味 重 春
大 島 良 雄	沢 村 誠 志
小 池 文 英	杉 山 尚
砂 原 茂 一	中 村 裕
津 山 直 一	野 島 元 雄
水 野 祥 太 郎	間 得 之

編集委員

明 石 謙	長谷川 恒雄
上 田 敏	橋 倉 一 裕
大 井 淑 雄	平 方 義 信
大 川 嗣 雄	三 島 博 信
荻 島 秀 男	山 内 裕 雄
土 屋 弘 吉	渡 辺 英 夫
横 山 巖	飯 田 卯 之 吉
	遠 藤 千 恵 子

編集同人

赤 津 隆	小 川 孟
青 山 孝	加 藤 一 郎
今 田 拓	小 島 蓉 子
今 村 哲 夫	笹 沼 澄 子
江 口 寿 栄 夫	鈴 木 明 子
小 野 啓 郎	高 田 玲 子
河 邨 文 一 郎	陳 慧 玉
金 久 卓 也	野 本 卓
兼 松 英 夫	

(以上五十音順、敬称略)

(担当：鹿島，田村，細田)